

ジャーナリズム・政策研究所
講義要綱（2024年度）

【法とジャーナリズム】

(火曜日・1 時限講義)

竹 田 昌 弘

民主主義社会では、多数意見が常に正しいとは限らないので、それを批判して修正を求めたり、少数意見を尊重したりしなければなりません。人の体で言えば、多数決で国や社会を動かす政治（立法・行政）が体全体に血液を送るポンプの「心臓」と、酸素や栄養素を体内に行き渡らせる「動脈」だとすれば、法と証拠に基づいて多数意見の誤りを正し、少数者の権利を守る司法は、体内から二酸化炭素や老廃物を受け取る「静脈」のようなものだと考えています。報道・ジャーナリズムも憲法が定める国民主権と「表現の自由」に依拠して、やはり静脈の役割を果たしているのではないのでしょうか。

こうした仕組みには、主権である国民が定めた憲法（日本国憲法前文の最初は「日本国民は…この憲法を確定する」となっている）によって、国や自治体などの公権力が暴走しないよう規律し、個人の自由と権利を守る「立憲主義」と、法が全ての公権力に優越する「法の支配」が不可欠です。この講座は法とジャーナリズムを学ぶとともに、法とジャーナリズムの視点から社会の出来事、在り方を考察していきます。

講義では、過去と現在の事件や裁判、社会問題を取り上げます。それはなぜ起きたのか、法とジャーナリズムはどのように機能したのか、そこから社会はどんな教訓を得たのかなどを話し合います。昨年は憲法と憲法訴訟、放送法の解釈改定問題、冤罪と誤判、実名報道、メディアスクラムなどを解説しつつ、現在進行形の社会問題として取り上げたテーマは、ジャニーズ問題や木原 誠二・内閣官房副長官（当時）と妻を巡る事件、性犯罪の法改正、自転車乗車時のヘルメット着用、ガーシー氏の名誉毀損事件などでした。

竹田 昌弘（たけだ・まさひろ）

1961年富山県生まれ。毎日新聞から共同通信の記者に転じ、宇都宮支局や社会部に勤務。社会部次長、司法キャップなどを経て編集委員兼論説委員。つくば国際大非常勤講師や参院法務委員会参考人（裁判員法）も務めた。著書『知る、考える裁判員制度』、編・共著『憲法ルネサンス』『民事陪審裁判が日本を変える』『現代ジャーナリズム事典』など。

【学生・社会人のための出版と編集 2024】

(火曜日・4時限講義)

下平尾直

読書や本が好きな方、自分で本や冊子を作ってみたい方、出版社に就職を希望する方におすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマやコミックで描かれるような華やかなギョーカイ？ それとも長い「出版不況」と報道されるように、暗くて地道で大変な仕事？

この講座では、本を企画して読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、出版業界の最新情報を織り込みながら、映像を観る、校正や広告を作成する、現役で活躍中の専門家をゲストにお招きするなどを通して、具体的な本づくり＝編集・出版のあれこれを学びます。

*講義内容は、受講者数の多寡などによって臨機応変に対応いたします。

下平尾 直 (しもひらお・なおし)

1968年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学。コピーライター、編集者を経て、2014年に、出版社(株)共和国を創業。2021年には、出版粋会「第18回新聞社学芸文化賞」を受賞。駒澤大学ジャナ研での講義は、今年で11年目になります。

2024年3月現在、藤原辰史『ナチスのキッチン』(第1回河合隼雄学芸賞)、山家悠平『遊廓のストライキ』、川島昭夫『植物園の世紀』、東直子『レモン石鹼泡立てる』、松井理恵『大邸の敵産家屋』など、人文書からコミックまで、ジャンルを問わず87点を刊行中。編著に、武田麟太郎『蔓延する東京』、長谷川春子『踊る女と八重桃の花』、『永山則夫小説集成』(全2巻)など多数があります。

【新聞記事と生成A I に学ぶ文章教室】

(後期水曜日・3時限講義)

眞 下 聡

新聞記事のいくつかには決まった型があり、そこに具体的なデータをはめ込んでいくことで一定の水準の記事が出来上がるものがあります。

また、雑報記事の第1段落(前文=まえぶん)は、記事全体の要旨として機能しています。

これらの特徴を知り実際に書いてみることで①具体的に書く②文章の型の大事さを知る③全体の要約を150字程度でまとめる——などを学ぶのがこの講座です。

さらに生成A Iで自分の文章をチェックすることで、文章力だけでなく生成A Iの活用法についても学べます(生成A IはChatGPTを使用します)。

講義は説明→実際に書いてみる→(次回)講評・生成A Iでチェック→次の説明—といった形で進める予定です。学生のみなさんが受講しやすいよう、実際に書いてみる時間を講座の時間内に設けます(20分程度)が、もちろん持ち帰って締め切り日までに書いて提出してもらっても構いません。

実際に取り上げる記事は、現時点では以下のものを候補として考えています。

1. 事件・事故記事
2. 訃報(おくやみ記事)
3. イベント告知記事
4. イベント開催記事
5. 人物や店などの紹介記事
6. スポーツの試合結果記事

※講座は深沢キャンパスの教室で行いますが、zoomによるオンライン配信もしますので学外の方も参加できます。

眞下 聡(まっか・あきら)

ニュース発掘発信アドバイザー・元朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。89年朝日新聞入社。鹿児島で3年間の取材執筆経験の後、新聞編集者を20年以上つとめました。ニュースの価値判断から見出し・レイアウトまで精通した新聞づくりのプロです。

2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに携わり、デジタル編集長として全社のデジタル展開にも取り組むなどネット発信のスキルも豊富です。

2015年から8年間、教育総合本部・朝日新聞ジャーナリスト学校で社外向け講座を担当。学生・社会人・シニア、企業・NPO・各種団体など幅広い方々へ新聞の読み方や読まれる文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについてアドバイスしました。

2024年5月に朝日新聞を退社。「ニュース工房9 Doors」を立ち上げ、ニュース発掘発信アドバイザーとしてみなさんのニュース発信を支える活動をしています。

駒澤大学ジャナ研での講座は今年で5年目です。

【新聞編集の基礎－記事・見出しからレイアウト・写真の扱いまで－】

(後期水曜日・4時限講義) 眞 下 聡

この講座は、サークル活動などで実際に新聞を編集している・これから編集する方向けの実践的な新聞編集基礎講座です。取材・写真撮影、記事の書き方、見出し・レイアウト・写真の扱いなど、半期の8回でひとつおりの学べるようにしています。

大学に入学して新聞サークルに入部した1年生の方はもちろん、主力として活躍する2年・3年生のみなさんにも得ることの多い講座になるはずです。みなさんの発行している新聞が一般紙でもスポーツ紙でも、どちらでも大丈夫です。

全8回の内容は、現時点では以下のようなことを考えています。

1. 新聞・新聞記事の基礎
2. 取材の仕方
3. レイアウト・紙面割り1
4. レイアウト・紙面割り2
5. 記事執筆・見出しの付け方1
6. 記事執筆・見出しの付け方2
7. 写真撮影・写真の扱い・トリミング
8. ネット展開・販売や広告

※講座は深沢キャンパスの教室で行いますが、zoomによるオンライン配信もしますので学外の方も参加できます。

※実際に新聞を編集しているサークルの方は、講座で参照しますのでその新聞のpdfを提供していただきます。

眞下 聡 (まっか・あきら)

ニュース発掘発信アドバイザー・元朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。89年朝日新聞入社。鹿児島で3年間の取材執筆経験の後、新聞編集者を20年以上つとめました。ニュースの価値判断から見出し・レイアウトまで精通した新聞づくりのプロです。

2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに携わり、デジタル編集長として全社のデジタル展開にも取り組むなどネット発信のスキルも豊富です。

2015年から8年間、教育総合本部・朝日新聞ジャーナリスト学校で社外向け講座を担当。学生・社会人・シニア、企業・NPO・各種団体など幅広い方々へ新聞の読み方や読まれる文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについてアドバイスしました。

2024年5月に朝日新聞を退社。「ニュース工房9 Doors」を立ち上げ、ニュース発掘発信アドバイザーとしてみなさんのニュース発信を支える活動をしています。

駒澤大学ジャナ研での講座は今年で5年目です。

【メディアリテラシー向上講座～事例から探るメディアのウソとホント】

(木曜日・3時限講義 ※前期のみ)

玉手 義朗

「殺人事件の容疑者として25歳の男が逮捕されました」
テレビを見ていたら、こんなニュースが流れてきましたが、
この男性は本当に犯人なのでしょうか？
「私はこの方法で15キロのダイエットに成功しました！」
バラエティ番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。
この方法を使えば、あなたも本当に痩せることができるのでしょうか？
私たちはテレビや新聞、インターネットなど様々なメディアから発信される情報に囲まれています。
これらの情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断してゆくのがメディアリテラシーです。
講義では実際のニュースやワイドショー、バラエティ番組を材料に、正しいメディアの活用法を身につけてゆきます。

玉手 義朗 (たまた・よしろう)

1958年 茨城県生まれ 外資系金融機関などで外国為替ディーリングに従事

1992年 TBSテレビ入社

社会部記者・経済部デスク・CS放送経済ニュースのキャスター

「みのもんたの朝ズバッ！」プロデューサーなどを歴任

【コラムを書きながら考えたこと】

(金曜日・1 時限講義)

桑 原 聡

この7年、隔週金曜日のペースで産経新聞朝刊に「モンテーニュとの対話」という時事コラムを書いています。このコラムを素材に授業を行います。まず私自身の世界の見方を紹介し、次いでどのようなことに配慮して書き上げたかについてお話しします。というのも、新聞という「公器」に文章を発表するには、ブログとは異なりさまざまな配慮が要求されます。差別意識が潜んでいないか、事実に基づいた批判か、といったことは当然ですが、たとえば、「ジャニーズ問題」に対してほとんどのメディアが目をつぶっていたように、ジャーナリズムにとって本来不要であるはずの「忖度」が求められることもあるのです。授業の方法は私が一方的に語るのではなく、出席者の方にも積極的に発言をしていただき、気ままな談論風発の場であればと考えています。参加をお待ちしています。

桑原 聡 (くわはら・さとし)

1957年山口県生まれ。産経新聞社で雑誌「正論」編集長や文化部編集委員などを務め、現在は隔週で大型コラム「モンテーニュとの対話」を連載中。10年～11年、日本大学芸術学部で「ポピュラーミュージック論」「村上春樹論」を講じる。著書に『わが子をひぎにパパが読む絵本50選』『わが子と読みたい日本の絵本50選』(ともに産経新聞出版)、『〈ドン・キホーテ〉見参! 狂気を失った者たちへ』(水声社)、新聞連載の「モンテーニュとの対話」をまとめた『寛容のすすめ』(海竜社)、共著に『酒とジャズの日々』(医療タイムス社)などがある。

【 企業と商品開発 】

(金曜日・2時限講義)

坂本 律行

企業は常に市場に働きかけています。市場や消費者の情報を収集し、分析し、商品コンセプトを練り上げて市場に投入しています。消費者は自らの消費行動により企業に働きかけてもいます。

消費者の手元に商品・サービスを届けるまでのあらゆるステップをマーケティングといいますが、ここではこれらのマーケティング行動についてのリアルなお話をしていきます。

原材料や商品の生産地、それらの物流、消費地は国境を超えており、どこであろうと何かが起きれば直接間接の影響は大きいのです。天候異変によってアメリカのトウモロコシ生産量が3割減になったら、牛丼の価格は2倍になるかも知れず、牛乳やバターは手に入らなくなるかもしれない。ということを意味しています。

この講座では、受講するみなさんが企業の商品開発の担当者としてマーケティング戦略の立案者であったなら、原材料を確保しないといけない資材担当者であったなら、自身が商品販売しなければならぬ営業マンであったならと講義の中で考えてもらおうと思っています。

講義の間だけ企業競争を生きてもらおうつもりです。コストのことを考え、購入してくれる消費者のことを考え、生産や物流がスムーズにゆくように、あらゆることを判断しないと行けない立場に身をおいてください。私は企業の行動や事実を見てきたようにお話していきますので、大学生のみならず中高年のみなさんの期待も裏切らないはずです。

坂本 律行 (さかもと・のぶゆき)

主に、マーケティングリサーチ・分析の会社で、多くのメーカー、事業会社の調査分析とマーケティングに携わってきました。マーケティングリサーチ・分析業務のうち消費財メーカーのプロダクトマーケティングの他に資源エネルギー庁や沖縄県庁、川崎市など官公庁の調査も行ってきました。株式会社坂本総合研究所代表。

【取材現場をフィールドワーク＋言葉で遊ぶか学ぶかディベート 実践講座】

(金曜日・3時限講義)

石元悠生

この講義では、書く、話す、伝えるコミュニケーションスキルの向上を目指し、ジャーナリズムを実証的、論理的に学びます。実証的では、ジャーナリズムの基本を学んだ後、政治やスポーツなどあらゆる分野の取材手法や原稿執筆に関して必要な要素を学びます。その後、実際の取材現場に出向き、新聞社の現場記者と共に取材や編集活動を体験するフィールドワークを行います。ジャーナリズムにおける取材はなぜ必要なのか、その意味や事実を伝える原稿はどうやって作成されるのか実感することを目的とします。

また、ジャーナリズムにおける取材現場を学んだ後は、次のステップとしてはジャーナリズムで必要となるエビデンス（根拠や裏付け）を論理的に学びます。具体的には、事実や自らの考えを他者に正確に伝達し納得させることをディベート（模擬討論）を通じて展開できることを目指します。自分とは異なる考えを持つ他者と論戦を行うことで、テーマに関わるさまざまな留意点を意識し効果的な表現に結び付けて相手との関係の中で学びを繰り返し行います。ディベートを、言葉を駆使するゲームとして捉え、個人対個人からはじめ徐々にチーム同士でできるようになることを目指し、最終的に学内や他大学のゼミとの間でディベート交流を行います。

石元 悠生 (いしもと・ゆうせい)

1967年生まれ。博士(メディア学)。ジャーナリスト。駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部講師。産経新聞社会部記者として警視庁や東京都庁、フランス W 杯特派員などを担当、編集委員や Web ニュース編集長を務める。コロンビア大学東アジア研究所客員研究員の後、東京都知事特別秘書として 2020 東京五輪招致活動に携わる。早稲田大学総合政策科学研究所招聘研究員や杉並区報道アドバイザーなども歴任、著書に「東京五輪招致の研究」(成文堂)、共著に「無責任の連鎖 耐震偽装事件」(産経新聞出版)などがある。少年野球チーム「元芝ハヤブサ」代表。

【あらためてテレビドキュメンタリーの神髄に触れてみませんか】

(金曜日・4時限講義 ※主としてオンライン)

新山 賢治

SNS時代、もうテレビは必要ない、テレビは見ない、という学生の皆さんも多いと思います。この潮流を受け止めて、これまで見たこともないという皆さんに、70年のテレビの歴史の中で、テレビドキュメンタリーが築き上げてきた取材の方法、情報の整理方法をしっかり伝えたいと思います。講義では、まず、観る機会の少なくなったドキュメンタリー作品を視聴し、その上で制作担当者を招き、放送に至るまでの悪戦苦闘の数々を披瀝していただきます。また、SNS制作者など最先端の方々にも視聴していただき、このオールドメディアから何を引き継ぐのか、議論していただく機会も持ちたいと思います。当然、これまで通り、テレビドキュメンタリーの熱いファンの方々は大歓迎です。なお、講義は基本的にはリモートでおこない、幅広い方々に自在にゲスト出演していただく予定です。

新山 賢治 (しんやま・けんじ)

1953年山口県生まれ 1977年日本放送協会近畿本部報道部入社。その後、報道局ディレクター、NHKスペシャルプロデューサーを経て、制作局長、理事、NHKエンタープライズ制作本部プロデューサー、現在は企画舎GRIT代表。2017年度「NHKスペシャル インパール 戦慄の記録」で芸術祭優秀賞、2018年度「劇場版 8Kで解き明かすからだの中の宇宙」で科学映像技術祭内閣総理大臣賞を受賞

2024 年度 ジャナ研講座 時間割

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 13:00～14:20	法とジャーナリズム (竹田昌弘)			コラムを書きながら考えたこと (桑原聡)
2 時限目 14:50～16:10				企業と商品開発 (坂本律行)
3 時限目 16:30～17:50		【後期のみ】 新聞記事と生成 AI に学ぶ文章教室 (眞下聡)	【前期のみ】 メディアリテラシー向上講座～ 実例から探るメディアのウソとホント (玉手義朗)	取材現場をフィールドワーク＋ 言葉で遊ぶか学ぶかディベート 実践講座 (石元悠生)
4 時限目 18:00～19:20	学生・社会人のための出版と編集 2024 (下平尾直)	【後期のみ】 新聞編集の基礎－記事・見出しからレイアウト・写真の扱いまで－ (眞下聡)		【主としてオンライン】 あらためてテレビドキュメンタリーの神髄に触れてみませんか (新山賢治)

【講義概要】

1回の講義時間は80分です。

各時限は以下の通りです。

- ・ 1時限目 13:00～14:20
- ・ 2時限目 14:50～16:10
- ・ 3時限目 16:30～17:50
- ・ 4時限目 18:00～19:20

講義は前期・後期とも8回で構成されています。

2学期制（各学期は9週間。間に1週間の休講期間があります）です。

前期・・・5月14日（火）～7月12日（金）

後期・・・9月17日（火）～11月15日（金）

※6月11日(火)～14日(金)、10月15日(火)、10月30日(水)～11月1日(火)は休講です。

【開講方式】

令和6年度は基本的に対面にて開講。講師によりオンラインにて開講。受講者には講義のURLをメールなどで連絡します。

オンラインはZoomでの開講を予定しておりますので、パソコンやタブレット、スマホなどが必要です。また、通信費用は受講生の負担となりますので、wifi環境などは各自お揃えください。

開講方式や必要機材、申し込み方法などの詳しい情報は、ジャーナリズム・政策研究所のホームページでご確認いただけます。最新の情報をぜひご入手ください。

*右のQRコードをスマホなどで撮るとリンクします。

下のアドレスもご利用ください。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/research/labo/kjps/lecture-guidance.html>



駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所 令和6(2024)年度 講義カレンダー(全16回)

前期:5月14日～7月12日

火	水	木	金
5月14日	5月15日	5月16日	5月17日
火①	水①	木①	金①
5月21日	5月22日	5月23日	5月24日
火②	水②	木②	金②
5月28日	5月29日	5月30日	5月31日
火③	水③	木③	金③
6月4日	6月5日	6月6日	6月7日
火④	水④	木④	金④
6月11日	6月12日	6月13日	6月14日
6月18日	6月19日	6月20日	6月21日
火⑤	水⑤	木⑤	金⑤
6月25日	6月26日	6月27日	6月28日
火⑥	水⑥	木⑥	金⑥
7月2日	7月3日	7月4日	7月5日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

後期:9月17日～11月15日

火	水	木	金
9月17日	9月18日	9月19日	9月20日
火①	水①	木①	金①
9月24日	9月25日	9月26日	9月27日
火②	水②	木②	金②
10月1日	10月2日	10月3日	10月4日
火③	水③	木③	金③
10月8日	10月9日	10月10日	10月11日
火④	水④	木④	金④
10月15日	10月16日	10月17日	10月18日
	水⑤	木⑤	金⑤
10月22日	10月23日	10月24日	10月25日
火⑤	水⑥	木⑥	金⑥
10月29日	10月30日	10月31日	11月1日
火⑥			
11月5日	11月6日	11月7日	11月8日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
11月12日	11月13日	11月14日	11月15日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

- ※ 教場：深沢キャンパス講義室2-1／オンライン（ZOOM）
- ※ 教場は、学会などの都合により変更になる場合がございます。
- ※ 休講の際の振替講義は原則として行いません。

※ 大学の授業実施カリキュラムに則った講義スケジュールのため、祝日の開講・平日の休講が、混在していることがあります。ご注意ください。

駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所事務局
TEL 03-6381-8901
受付時間：月～金10:00～12:30／13:30～17:00
※大学行事に則り変則的な休業日がございます